

『農薬出荷統計からみた 日本農薬市場 2020（含、最新登録農薬情報）上山功夫著』

【はじめに】

我が国の農薬市場を知る上で、日本植物防疫協会が毎年秋に発行している「農薬要覧」は、一級の資料である。ここには、過去 3 年間ににおける農薬製品の剤型名、生産量、出荷量、生産金額、出荷金額、会社名、県別出荷量、農薬の輸出・輸入、登録情報など我が国で登録販売されている農薬、メーカーが輸出、輸入している農薬などに関するほぼすべてのデータが網羅されており、農薬の市場調査を行うに当たって欠くべからざる資料である。またその正確さ、詳細さは政界でも希有の資料集といっても過言ではない。

「農薬要覧」が最初に発刊されたのは 1963 年（昭和 38 年 3 月）で、農林省農政局植物防疫課の監修で編纂され、（故）石倉秀次課長が巻頭の辞を記されている。1963 年版にはそれより前の 5 年間（1958～1962 年度）の生産出荷金額が記載されているので、結局これまでの「農薬要覧」を調べれば、ほぼ 60 年にわたる日本の農薬市場の状況を知ることができる。

しかし農薬要覧から農薬市場を分析する上で 2 つの問題点がある。一つは、原体別出荷量や会社別出荷量、あるいは純粋に殺虫剤、殺菌剤の総出荷金額を算出するが簡単ではない点である。具体的に述べると、殺虫殺菌剤という区分があり、成分ごとに（原体ごとに）区別されていない。また製品の出荷量がメーカー（会社）単位で記載されているが、出荷金額とはリンクしていないので、メーカーごとの出荷金額は記載されていない、などである。本資料では、仮定した条件のもとで、原体ごと、メーカーごとの出荷金額を算出した。各企業が所有する生のデータとは当然異なると思われるが、我が国における農薬市場、関連企業の活動を知る上で、その全体像は捕まえているものと考えている。

もう一つの問題点は、農薬要覧から新規登録剤を含む最新の農薬に関する情報は得られない。データを集計し、印刷し、出版するまでに少なくとも 2 年かかるので、最新版を用いてもほぼ 3 年前の状況を見ていることになる。本篇では「農薬要覧」2019 年版を元に、2014 年～2018 年度のデータを分析して、様々な観点から我が国の農薬市場を解析したが、さらにほかの資料も参考にして、新規農薬についての知見もまとめた。

本書は広く農薬業界に関わる方々の便に供するためにまとめたものである。至らぬ点は多々あろうかと思うが、今後、読者の方々のご意見ご批判を仰ぎながら、より役立つ実用書を目指して版を重ねていきたい。

【目 次】

1. 日本の農薬市場、全体像
 - 1.1 過去 30 年間（1989 年～2018 年）の総出荷金額及び輸出金額の推移
 - 1.2 過去 6 年間（2013 年～2018 年）の国内農薬市場の推移
 - 1.3 過去 6 年間（2013 年～2018 年）の農薬用途別出荷金額の推移
2. 殺虫剤市場
 - 2.1 殺虫剤各原体の出荷金額の推移
 - 2.2 殺虫剤；作用機作ないし使用場面別出荷金額の推移

3. 殺菌剤市場
 - 3.1 殺菌剤各原体の出荷金額の推移
 - 3.2 殺菌剤；作用機作ないし使用場面別出荷金額の推移
4. 除草剤市場
 - 4.1 除草剤各原体の出荷金額の推移
 - 4.2 除草剤；用途別出荷金額の推移
5. その他
 - 5.1 植物成長調整剤
 - 5.2 展着剤
 - 5.3 複合肥料
 - 5.4 誘引剤
 - 5.5 忌避剤
 - 5.6 殺鼠剤
6. 会社別データ
 - 6.1 会社別データ：国内市場の概要
 - 6.2 会社別データ：輸出量の推移
 - 6.3 国内各会社別動向（上位 30 社）
 - 6.4 グローバル農薬関連企業の動向と我が国の原体メーカーの状況
7. 新規登録剤及び登録予定の剤
 - 7.1 2014 年～2018 年版の農薬要覧にそれぞれ初出荷された農薬原体
 - 7.2 農薬要覧-2019- に記載されていない新規登録農薬原体について
 - 7.3 ISO 名が登録され、日本で登録されると予想される化合物
8. 参考文献、情報源
9. 謝辞
10. 原体名索引
11. あとがき